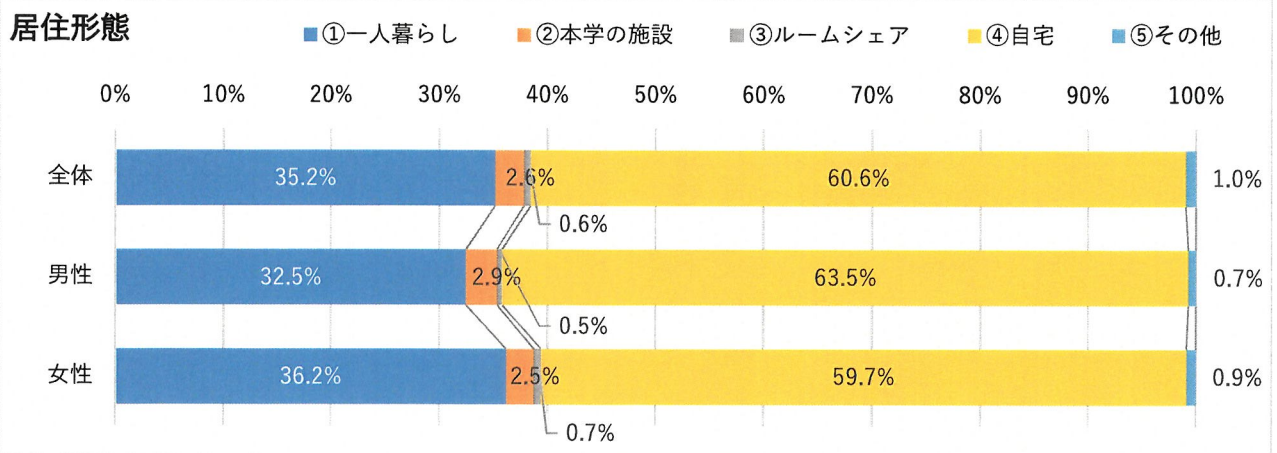


I. 基本事項と生活環境

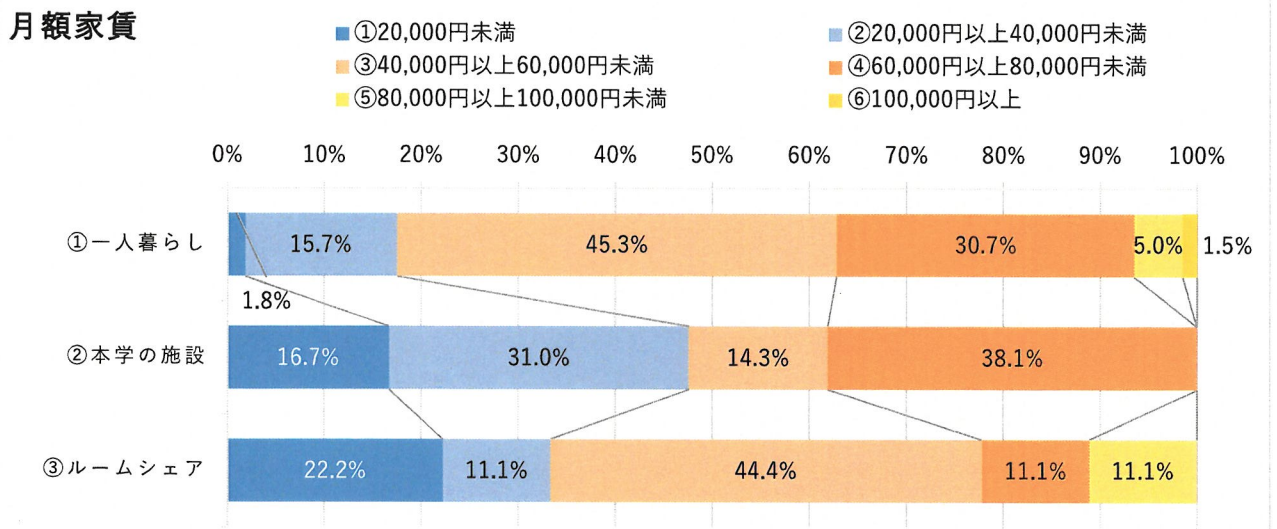
Q 1. 現在の居住形態

日本学生支援機構の令和 4 年度調査による全国平均と比較すると、自宅通学と一人暮らしの割合に大きな差は見られない。一方で、本学の学寮利用者の割合は全国平均の 5.4% に対し 2.6% と低い。これは、本学が特徴的な施設「結 (YUI)」を提供しているものの、そのコンセプト上、入居可能な学生数が限られていることが要因と考えられる。また、一人暮らしが 35.2% と全国平均の 28.6% を大きく上回る状況を踏まえ、枚方警察の協力を得て実施した防犯講習会などを継続的に行うことが、学生の安心・安全の確保に寄与すると期待される。



Q 2. 管理費・共益費を含む月額家賃

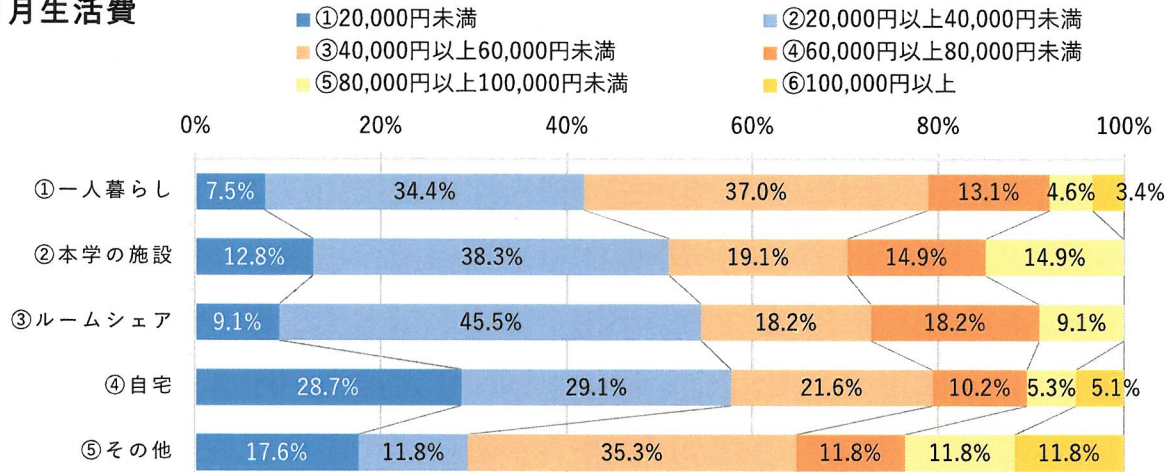
一人暮らしの学生の約 8 割が月額 4 万円以上の家賃を支払っており、他の自宅外生と比べて家賃負担が大きい。ルームシェアはサンプル数が少ないため正確な比較は難しいが、一人暮らしに比べて月額家賃が 4 万円未満の割合が倍となっている。このことから、経済的に厳しい学生にとってルームシェアは有力な選択肢の一つと考えられる。



Q 3. 家賃を除く一カ月の平均生活費

一人暮らしの学生の生活費は、自宅から通う学生の約 1.2 倍と推定される。これは日本学生支援機構の調査による全国平均（1.4 倍）よりやや低いが、自宅生の 28.7% が生活費を 2 万円未満で賅っているのに対し、一人暮らしの学生ではその割合が 7.5% にとどまる。これにより、自宅生の実家への依存度の高さが浮き彫りになる。また、同調査では生活費の増加傾向がここ数年確認されており、最近の物価高騰が学生生活に与える影響について、経年的な観察が必要である。

一カ月生活費



Q 4. 一カ月当たりの家庭からの経済的援助額（小遣い、仕送り等）

日本学生支援機構の令和 4 年調査の全国平均では、学生生活費全体の 60.1% が家庭からの支援によって賄われており、その割合は徐々に減少傾向にある。本学では、自宅通学の学生の約 6 割が家庭からの経済的支援を受けずに大学生生活を送れているが、一人暮らしの学生では、8 割以上が家庭からの支援なしでは生活が成り立たない厳しい状況にある。また、次のセクションで詳述するように、多くの学生はアルバイト収入を前提として生活を維持している現状が見受けられる。

家庭からの経済的支援

